

## 住民参加型の道空間づくりにおける合意形成のプロセスと事業の評価について

九州大学大学院 学生会員 ○江夏量  
下関市立大学 正会員 坂本紘二

九州大学大学院 正会員 外井哲志  
九州大学大学院 正会員 梶田佳孝

### 1. はじめに

昨今、まちづくりにおいて住民参加型で実施されるものが益々増加している。住民参加とは、ある公共施設の在り方によって最も影響を受けるであろう住民がその決定プロセスに参画するものであり、共用する生活空間である道空間においてこそ取り入れられる必要がある。

本研究では、福岡市南区若久地区コミュニティゾーン（以下、CZ）形成事業におけるCZ形成事業調整協議会（以下、協議会）の議事録の整理・関係者からのヒアリング調査を通して、住民参加のプロセス・合意形成プロセスを明らかにし、今後の住民参加型施設づくりに資するために分析を試みたものである。

### 2. コミュニティゾーン形成事業調整協議会の経緯

若久地区は周囲が幹線道路で囲まれ、大量の通過車両が進入していた。また自治会活動も盛んだったことから、1997年CZ形成事業のモデル地区として選定された。1998年2月の第1回以降、現在まで25回の協議会が行われている。表1に協議会の概略を示す。第13回協議会までに、2回の大きな住民説明会をはさみながら実施方針が定まり、その内容は2000年夏に実施・施工された。その後施工状況を見て異議を唱える住民が多数現れたので、3回ほど異議者を交えながら、接点を探しつつ協議を重ねた。

### 3. 対立点とその合意形成のプロセスについて

協議の中での主な対立点としては1)電柱・樹木・ポール

ル、2)ハンプ、3)歩道、4)交通規制などがあった。ここでは主として を取り挙げる。

#### 1)電柱・樹木・ポール

電柱・樹木・ポールの問題における合意形成のプロセスを図1に示す。

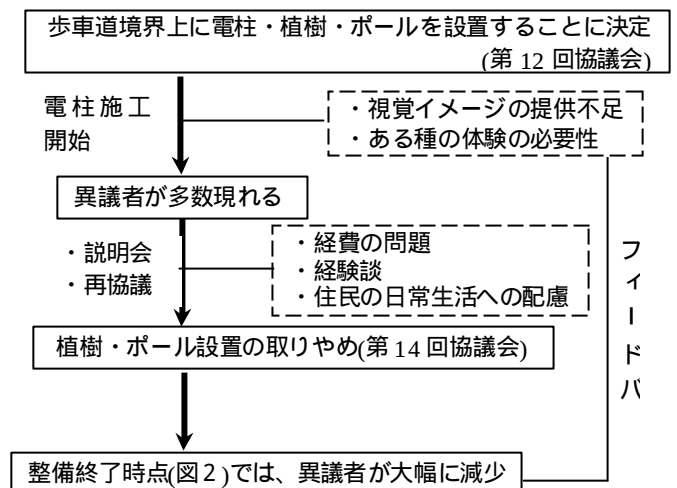
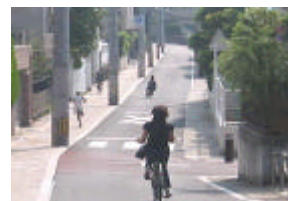


図1 電柱・植樹・ポールに関する合意形成のプロセス



ここで、電柱移設後には異議者が大幅に減少した事実に着目する必要がある。これは住民が整備後のイメージを整備中には想像することができず、完成後に目で見えてはじめて理解できたためと思われる。以上より、施工開始前後での視覚イメージの提供不足、またはある種の体験の必要性が挙げられる。

### 4. 事業の評価

事業終了後に、事業全体を振り返り、事業中に見えなかった問題点を確認するために、事業に参加した住民(2066人中280人回答)・児童(275人中249人回答)・生徒(160人中27人回答)及び周辺地域の道路利用者(タクシー運転手75人中49人回答)など立場の違う様々な人を対象にアンケート調査を行い、その結果を分析して評価を行った。

表1 協議会議事録から整理した協議会経緯

| ステージ                                | 期間                     | 回数   | 概要                      | 主な内容                                |
|-------------------------------------|------------------------|------|-------------------------|-------------------------------------|
| 1.基本構想 代替案づくり                       | 1998.2<br>～<br>1998.8  | 第1回  | 事業紹介 現状                 | 協議会メンバーが事業自体に対して疑問を持っていた。           |
|                                     |                        | 第2回  | 事務局からの調査結果報告            | 現況に対する4種の調査報告が提出される。                |
|                                     |                        | 第3回  | 整備基本方針・イメージについて         | たたき台をもちに意見を交わす。                     |
|                                     |                        | 第4回  | 交通規制案について               | 規制案のたたき台をもちに意見を交わす。                 |
|                                     |                        | 第5回  | 地元に下すための案の要約            | 地元に下して意見を聞くためにいくつか案をまとめる。           |
| 幾つかの代替案を基に、全町民総会、その後 3町内による合同説明会を実施 |                        |      |                         |                                     |
| 2.基本案づくり                            | 1998.10<br>～<br>1999.3 | 第6回  | 地元意見の集約                 | 地元の意見を考慮に入れ、詳細なたたき台をつくるようにワーキングに要請。 |
|                                     |                        | 第7回  | 一本化した案について検討            | 詳細なたたき台をもちに意見を交わす。                  |
|                                     |                        | 第8回  | 基本方針まとめ 決定              | ある程度固まった基本図面案ができあがる。                |
| 一本化した基本案を基に、住民説明会を実施                |                        |      |                         |                                     |
| 3.実施案づくり                            | 1999.6<br>～<br>2000.6  | 第9回  | 修正した基本計画図をもちに検討         | 具体的事項は保留だが大体的な方向付けが出来た。行政側が人事異動あり。  |
|                                     |                        | 第10回 | 計画図の詳細部分の検討             | 規制のかけ方について地元側と調整で協議となる。ハンプが設置される。   |
|                                     |                        | 第11回 | オアシスロードの歩道境界上について       | 電柱・樹木などの境界上に設置するものについて協議となる。        |
|                                     |                        | 第12回 | 交通規制のかけ方についての討論         | 一応交通規制が協議会で了承された。                   |
|                                     |                        | 第13回 | 交通規制の最終確認               | 第12回で決まった交通規制が実施されることとなった。          |
| 実施案通りに規制・工事を開始、その後異議を唱える人たちへの説明会を実施 |                        |      |                         |                                     |
| 4.異論者との議論                           | 2000.9<br>～<br>2001.4  | 第14回 | 整備内容に異議を唱える方々を交えての討論(1) | 協議会メンバーでない方がある項目に反対するため協議会に特別参加する。  |
|                                     |                        | 第15回 | 整備内容に異議を唱える方々を交えての討論(2) | 協議会メンバーと反対者で今後の協議の仕方について議論がある。      |
|                                     |                        | 第16回 | 要請書に対する文書回答について         | ハンプが修正されることが協議会で了承される。              |
|                                     |                        | 第17回 | 整備内容に異議を唱える方々を交えての討論(3) | 協議会内容の住民への公告の仕方について議論がある。           |
| 5.施工計画 実施報告                         | 2001.5<br>～<br>2003.9  | 第18回 | クロスロード設計について            | クロスロード1～4号の設計図面が提出される。              |
|                                     |                        | 第19回 | スピードサーブT法施工について         | ハンプの修正案としてスピードサーブT法を協議会として採用。       |
|                                     |                        | 第20回 | 1年度工事完了報告及び14年度予定       | 減速効果ありとの報告。行政側が人事異動あり。              |
|                                     |                        | 第21回 | スピードサーブT法の効果測定結果について    |                                     |
|                                     |                        | 第22回 | 14年度工事進捗状況について          |                                     |
|                                     |                        | 第23回 | 旭ヶ丘住宅周辺の道路整備計画について      | 該当地域の整備案が提出される。                     |
|                                     |                        | 第24回 | 15年度工事予定について            |                                     |
|                                     |                        | 第25回 | 15年度竣工工事について            |                                     |

## (1) CZ形成事業への関わり及び認知度等の調査

表2・表3

表2 事業への関わりについて

|                                        | 全体 |
|----------------------------------------|----|
| a.協議会に加わり、事業の進行に積極的に参加した               | 10 |
| b.強い関心があり、説明会に参加したり、関係者に意見を述べたりした      | 19 |
| c.関心を持っていたが、直接的には関わらず、話し合いの進行具合を見守ってきた | 89 |
| d.それほど関心はなかったが、工事の進展は見守ってきた            | 92 |
| e.全く関心がなく、よく知らない                       | 53 |

表3 協議会の認知度について

|                         | 全体 |
|-------------------------|----|
| a.具体的な活動内容までよく知っていた     | 15 |
| b.存在とおおまかな活動内容は知っていた    | 65 |
| c.存在は知っていたが、活動内容は知らなかった | 85 |
| d.存在自体を知らなかった           | 52 |

の結果から、形成事業への関わり及び認知度は高いものであったといえる。一方、

表4の結果から、住民は主に

表4 情報源について

| 質問3(1)        | 全体  |
|---------------|-----|
| a.町内の回覧板で知った  | 113 |
| b.公民館便りで知った   | 34  |
| c.人から聞いて知った   | 25  |
| d.説明会に参加して知った | 31  |
| e.マスコミを通じて知った | 3   |
| f.その他         | 16  |
| g.知らなかった      | 63  |

回覧板や公民館便りを情報源としていたことがわかる。

これらは住民の末端まで配布されるという利点を有す

る一方で、問題点として一方的な情報であること、情報の範囲が地区内だけに限られること、掲載スペースに制限があること、情報の画一化を招く恐れがあることなどが考えられる。その結果、後々になって「聞いていない」という不満を持つ住民も現れ、双方の情報伝達の認識に差が生じてしまっていた。また同地区に居住していない地権者には情報が伝わっていなかったため、その中からも異議者が現れたことも反省すべき点であり、合意形成のためには情報の双方向伝達方法の確立・改善を様々な検討・工夫することが必要である。

## (2) 事業への民意の反映

表5の結果より、

表5 住民意見の反映について

|                  | 全体  |
|------------------|-----|
| a.十分反映されている      | 25  |
| b.ある程度反映されている    | 129 |
| c.反映されているが不十分である | 53  |
| d.反映されていない       | 17  |

「事業への住民意見の反映」については評価されていると判

断される。一方で自由記入欄では、「ごく一部の人の意見だけで物事が進んでしまったのではないか」、「意見があってもどこに言えばよいかわからない」という意見もあった。住民参加型の施設づくりの成功のためには、住民の少数意見をくみ上げ、事業に反映させていく仕組みを確立していかなければならない。

## (3) 事業に対する評価

地域住民

表6 地域住民の評価

|                    | 全体  |
|--------------------|-----|
| a.大変住みやすくなった       | 50  |
| b.住みやすくなったが満足はできない | 122 |
| c.以前とあまり変わらない      | 49  |
| d.かえって住みにくくなった     | 12  |

表6より CZ 形成事業によって全体の 74%

が住みやすくなったと感じていることがわかる。以上より、事業の成果については評価されていると判断される。

周辺地域の道路利用者(タクシー運転手)

表7の結果より、地区外の道路利用者から見ても、当

該地区の道路

規制と道路整

備のあり方に

ついてある程

度好評価が得られていると判断される。一方、自由記入欄では「自分たちの地区のことしか考えていないのではないか」という意見もあった。地区内だけの情報伝達・PR活動ではなく、地区外に対しても積極的にPRしていく必要があるのではないかと考える。

## (4) 調整協議会

事業後に実施されたアンケート結果を受けて、2004年12月13日に行政・住民・専門家が一堂に集まって調整協議会が開催されている。詳しい内容については現在調査中であるが、ただアンケート調査を行って終わりではなく、このような場で各々の見地から意見を述べ合うことによってよりよい評価ができるものと考ええる。

## 5. おわりに

本事業は当初相当な利害衝突で合意形成が困難に思われたが、長期にわたる協議会の積み重ねや異議者との粘り強い話し合い、予想以上の安全性や快適性を得ることができている。

中でも特に、参加型の社会基盤整備における対立点の合意形成の促進には、その地域におけるリーダー的人物の存在が必要なこと、実際の体験(ある種の社会実験)を通して判断することが必要なこと、および、情報の伝達法と情報交換・共有の重要性、などが明らかになった。

また、事後評価アンケートより、本事業の進行方法、及び道路整備のあり方に対して、地域住民・周辺地域の道路利用者から一定の評価を得ていることがわかる。また、本事業では客観データだけの評価ではなく、認知度や情報伝達などの事柄について、実際の事業に参加した人にしかわからない内容を通して主観的な意識評価も加えている。これによって、事業中に見えなかった反省点を確認し、今後の参加型施設づくりのために、本事業の経緯や体験を明確な形で残すことが可能になった。

## 参考文献

- 1) 菊池・外井・坂本・梶田：「住民参加型の道空間づくりにおける合意形成のプロセスについて～福岡市南区若久地区コミュニティゾーン形成事業を例にして～」2003年度土木学会西部支部研究発表会
- 2) 江夏・外井・坂本・梶田・菊池：「住民参加型の道空間づくりにおける合意形成のプロセスについて」2004年度第30回土木計画学研究発表会

表7 タクシー運転手の評価

|                            | 全体 |
|----------------------------|----|
| 若久地区道路規制と道路整備のあり方に賛成である。   | 28 |
| 不便になったので、もう少し交通規制をゆるめて欲しい。 | 11 |
| 大変不便になったので、元に戻して欲しい。       | 2  |
| あまり通行することもなく、関心がない。        | 5  |
| その他                        | 4  |